

自転車を活用したまちづくりに向けた取り組み
—積雪地域を対象として—

福井工業大学大学院 学生会員 ○吉村 朋矩
福井大学 正会員 三寺 潤
福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

現在、福井県大野市では自転車を活用したまちづくりに向け、平成 24 年 4 月より「大野市自転車を活用したまちづくり検討委員会（以下、大野市検討委員会）」が設置され、今後の取り組みについて議論されている。さらに当該地区は、平成 30 年に福井県で開催される福井国体で自転車競技が行われるため、これを契機に自転車に関する各種施策が行われる。

本研究では、積雪地域である大野市の自転車利用の特性を把握するため、大野市検討委員会の協力を得て大野市民を対象に自転車利用に関するアンケート調査を実施した。これにより、今後の大野市における自転車を活用したまちづくりに向けた糸口を探るものである。

2. 調査概要

調査は福井県大野市在住の中学生以上の市民を対象に大野市建設課の協力を得て、自転車利用に関するアンケート調査を実施した。調査方法は各地区の居住人口に比例した票数を抽出し、無作為に選出した 300 世帯(1078 票)に対して 2012 年 6 月 11 日(月)に郵送配布した。調査票の回収期限は 2012 年 6 月 30 日(土)とし、回収についても郵送とした。回収数は 351 票であり、そのうち有効回収数は 320 票であった。アンケート調査票の内容は、個人属性、自転車の利用状況、今後の自転車環境整備に対する要望などである。回答者の属性については、表-1 に示す通りである。年代別でみると若干の偏りはあるが、男性、女性の性別比は 50%程度であった。

3. 調査結果

(1) 自転車利用と特性について

年代別にみた家庭内で利用できる自転車について図-1 に示し、図-2 には年代別にみた自転車利用頻度について示す。自分の自転車がある割合は、10 代で

キーワード 自転車、自転車環境整備、自転車通行空間、交通安全教育、積雪地域

連絡先 〒910-8505 福井市学園3丁目6-1 福井工業大学工学部都市デザイン研究室内 TEL:(代)0776-29-2620 (内2313)

表-1 回答者の属性

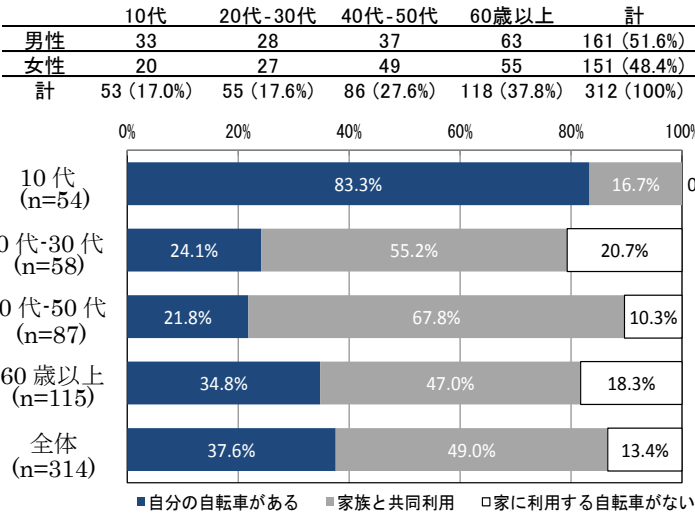


図-1 年代別にみた自転車の保有状況

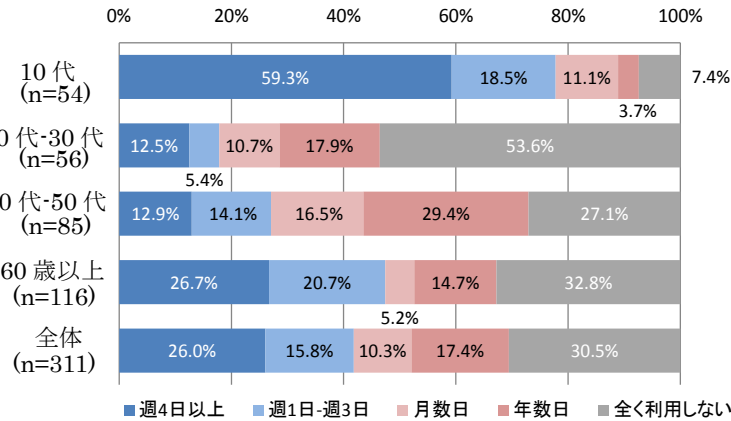


図-2 年代別にみた自転車の利用頻度

83.3%と他の年代に比べ最も高い割合を占め、次に 60 歳以上の 34.8%が続いている。また家に利用する自転車がない項目に着目すると、20 代-30 代で 20.7%と最も高い割合を占めた。自転車の利用頻度に着目すると、10 代による週 1 日以上自転車利用をしている割合は 77.8%であり、他の年代に比べ高いことが分かる。この割合は 20 代 - 30 代で約 60%減少するが、それ以降年代を重ねるごとに増加している。これは、図-1 に示した自転車の保有状況の自分の自転車がある項目の割合に比例しており、自分の自転

車がある割合が高くなるほど自転車を週 1 日以上利用する傾向にある。また、10 代以外における月数日以下の自転車利用が 50%以上を占めている。このことから、大野市は盆地であり平坦な道路が多く自転車利用に適している地形であるにも拘らず、市民は自転車を利用しない傾向にある。

雨天時と冬期の自転車利用について図-3 に示すと、雨天時に利用しない割合は 74.5%であり、雪の日に利用しない割合は 82.6%である。冬期のその他の回答は、冬期は路面が凍結して利用しないなどの全ての回答が冬期は自転車を利用しない回答であったため、これらを含めると冬期の利用とりわけ降雪時の利用をしない割合は 86.8%である。また、季節に関係なく自転車を利用する割合は 5.3%であり、天候に関係なく利用する割合は 3.8%であった。以上のことから、雨天時と冬期、特に降雪時には自転車を利用しないことが分かる。雨天時の場合には、視界や路面が悪くなるため事故などに遭う危険性を伴うからだと考える。また、雪の日の利用については、当該地区が特別豪雪地帯に指定されている積雪地域であるため、冬期の自転車利用が非常に困難であるからと考える。

(2) 今後の自転車環境整備に関する要望

今後の自転車環境整備に関する大野市民の要望を図-4 に示す。「自動車や歩行者から分離された自転車走る専用の場所を設置する」の割合が 49.5%示した。しかし、車線を減らし自転車通行空間を整備する割合は、9.9%に留まり、「車道と分離し自転車が通行できる歩道を広げる」の割合が 53.1%を占めた。また、「自転車が通行する場所をカラー舗装するなど分かりやすくする」割合が 56.0%であった。自転車のルールやマナーに関する広報や教育の実施する割合はそれぞれ 42.1%、40.3%であった。以上のことから、市民の要望としては、車道（車線）を減らすことなく、歩道を拡幅し、自動車や歩行者から分離された自転車通行帯を設置し、その中でカラー舗装をするなど通行位置を視覚的に分離する整備を求めている。またこれらの整備に併せて、自転車の通行ルールやマナーに関する広報や自転車安全教育の実施を望んでいることが分かった。

4. まとめ

大野市でのアンケート調査から明らかとなった大野市民の自転車利用に関する特徴と今後の自転車環

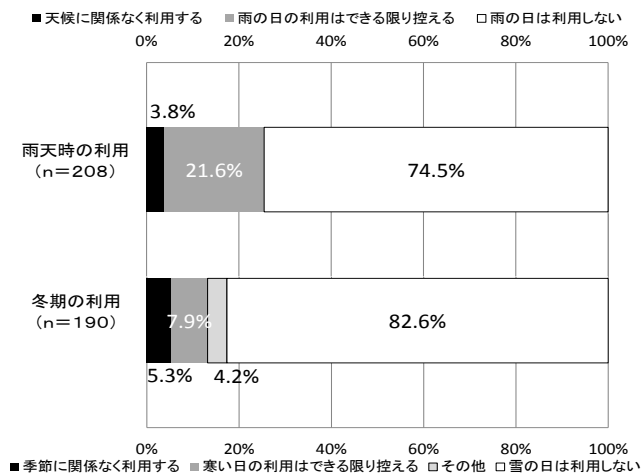


図-3 雨天時と冬期の自転車利用

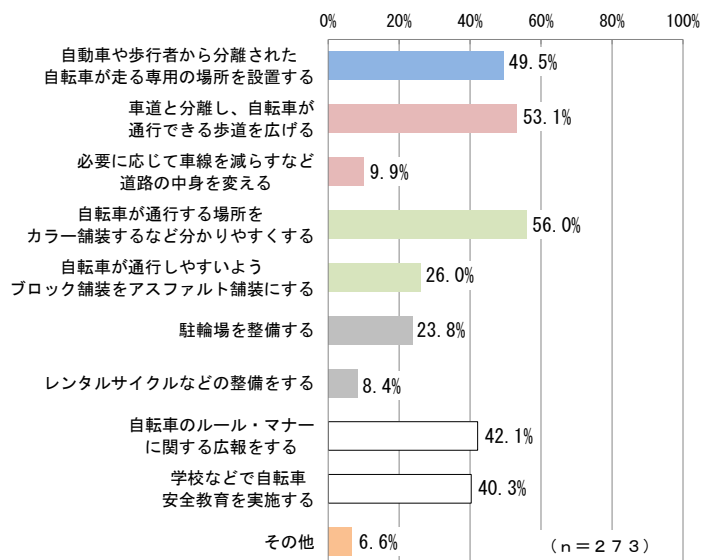


図-4 今後の自転車環境整備に関する市民の要望

境整備への要望は以下の通りである。

- (1) 自転車の保有状況について自分の自転車がある割合をみたとき、全体は 37.6%である。特に 10 代は他の年代に比べ 2 倍以上高い。
- (2) 自転車の利用頻度について週 1 日以上の利用の割合をみたとき、全体は 41.0%である。特に 20 代 - 30 代では他の年代に比べ低い。
- (3) 雨天時に自転車を利用しない割合は 74.5%であり、冬期では 86.8%である。
- (4) 今後の自転車環境整備について、市民は自転車通行空間の整備だけではなく、自転車のルール等に関する広報や教育の実施を望んでいる。

謝辞：本研究を遂行するに当たり、「大野市自転車を活用したまちづくり委員会」および大野市建設部建設課の方々にご協力していただきました。ここに記して謝意を表します。